

# 企画展「司文庫で徹底解剖～浮世絵～」関連イベント

## 『その浮世絵、捨てちゃうんですか？』

- 日時 令和5年6月11日（日）13時30分から15時
- 場所 中央図書館3階第2・3会議室
- 豊橋市図書館「知の伝道師」 No.6. 山田 幹
- 内容 浮世絵がどう作られ、どのように発展してきたのかという概説的な話にとどまらず、なぜ浮世絵が海外でヒットしたのか、ゴッホなどその後の海外の作家に与えた影響などについて紹介した。

海外の作家にもその創作に影響を与え、今なお根強い人気のある”浮世絵”に焦点を当て、「浮世絵の凄さはどこにあるのか」に迫る講座に、30代から70代まで10名の方にご参加いただきました。中には、前回令和4年5月に開催した「画家と絵画と価値の話～“変わる”きっかけ～」を聴講した山田さんのトークのリピーターさんもいらっしゃいました。

「浮世絵は世界に影響を与えた美術だ」という言葉から、“浮世絵＝美術？”という問いを参加者に投げかける自己紹介から始まりました。講座の前半は、浮世絵とは何か、浮世とはどういう意味なのかを時系列で説明し、喜多川歌麿や東洲斎写楽などの著名な浮世絵作家の生涯やエピソードなどを当時の時代背景と紹介しました。

後半は、幕末以降の欧化政策による浮世絵の衰退と海外でのヒットの様子などを紹介しました。結びでは、初めに参加者に投げかけた”浮世絵＝美術？”の答えとして、「日本人は見る目が無かったのか？あまりに閉鎖的で身近すぎた。西洋人にとって価値ある美術品だった」と伝えました。

参加者からは、

時代による価値観の違いが、大変興味深い  
と思いました。



当時は、捨てちゃうくらいの価値観だった  
というのが興味深かったです。



という感想が寄せられました。

実際の浮世絵を参加者が見て、触って、査定する、という体験の時間もあり、美術に対して興味を持てるイベントになったと思います。